

研究業績

57年度総合検診センターの検診結果

厚生連総合検診センター 小川 忠邦 阿部 修平
松井 規子 岸 宏栄

昭和57年度(57年4月～58年3月)の検診センターにおける農協関係者の検診結果は、表1に示した通りである。受診者総数 2,822名 (男1,351名, 女1,471名)で、前年度に比して183名、6.9%の増加であった。

表1 年代別性別総合判定別分類(カッコ内の数字は比率(%))

判定	20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～		小計		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
異常なし	23	2	54	40	61	87	45	40	11	6			194	175	369
													(14.4)	(11.9)	(13.1)
差支えなし	1	3	13	16	16	32	11	34	3	3	1		45	88	133
													(3.3)	(6.0)	(4.7)
経過観察	11	5	42	32	80	88	92	121	38	33	5	2	268	281	549
													(19.8)	(19.1)	(19.5)
要注意	2	1	5	10	21	38	16	61	4	8			48	118	166
													(3.6)	(8.0)	(5.9)
要精密	10	5	79	49	177	177	187	246	103	68	11	6	567	551	1,118
													(42.0)	(37.5)	(39.6)
要治療	2	1	14	13	37	81	100	114	66	45	10	4	229	258	487
													(17.0)	(17.5)	(17.3)
計	49	17	207	160	392	503	451	616	225	163	27	12	1,351	1,471	2,822
	(3.6)	(1.2)	(15.3)	(10.9)	(29.0)	(34.2)	(33.4)	(41.9)	(16.7)	(11.1)	(2.0)	(0.8)	(47.9)	(52.1)	

総合判定の疾患別内容については、次の機会にまとめることにして、今回は肥満と血清脂質との関連を検討したので報告する。

%であり、女性に肥満傾向が目立つ。なお標準体重は桂法により求めた。

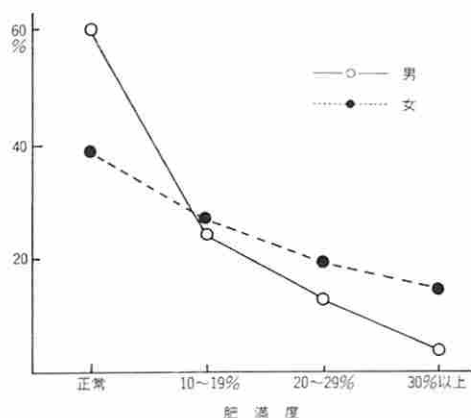
1. 肥満と高脂血症

まず、標準体重に対する肥満度の分布は、表2、図1に示した。肥満度20%以上の者が、男性で16.1%であるのに対して、女性では33.8

表2 肥満状況(カッコ内の数字は比率)

性別	肥満度				計
	正常	10～19%	20～29%	30%以上	
男	808	326	167	50	1,351
	(59.8)	(24.1)	(12.4)	(3.7)	
女	575	399	282	215	1,471
	(39.1)	(27.1)	(19.2)	(14.6)	
計	1,383	725	449	265	2,822
	(49.0)	(25.7)	(15.9)	(9.4)	

図1 肥満状況



肥満度とコレステロール及び中性脂肪との

関連を表3に示した。

表3 肥満とコレステロール及び中性脂肪との関連性

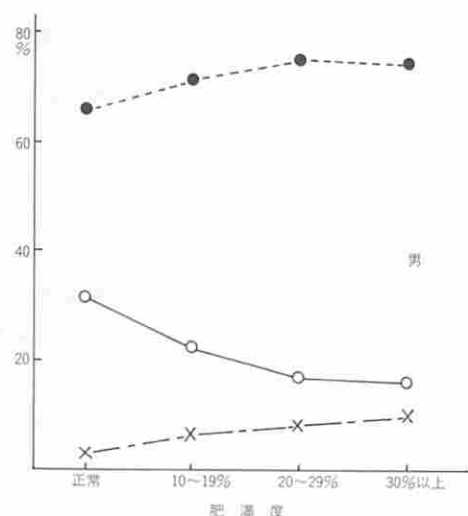
TC, TG	肥満度	肥満度(男)				肥満度(女)			
		正常	10~19%	20~29%	30%以上	正常	10~19%	20~29%	30%以上
総コレステロール mg/dl	160以下 比率 %	254 31.4	73 22.4	28 16.8	8 16.0	135 23.5	68 17.0	36 12.8	16 7.4
	161~240 比率 %	530 65.6	232 71.2	125 74.9	37 74.0	409 71.1	299 74.9	208 73.8	165 76.7
	241以上 比率 %	24 3.0	21 6.4	14 8.4	5 10.0	31 5.4	32 8.0	38 13.5	34 15.8
中性脂肪 mg/dl	150以下 比率 %	678 83.9	227 69.6	87 52.1	22 44.0	544 94.6	358 89.7	225 79.8	155 72.1
	151以上 比率 %	130 16.1	99 30.4	80 47.9	28 56.0	31 5.4	41 10.3	57 20.2	60 27.9

1) 総コレステロール

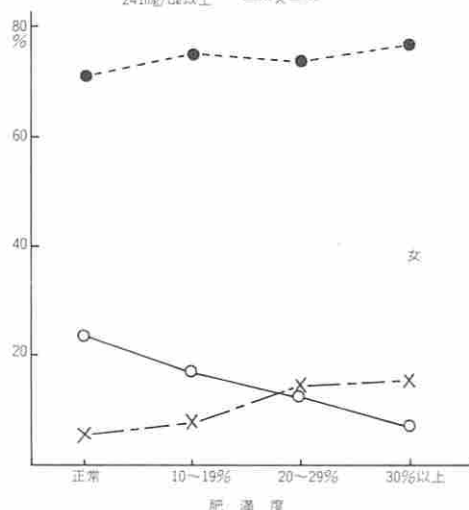
肥満度と総コレステロール値との関連を図2に表わした。男女共、肥満度が増加するに

従って、高コレステロール血症(241mg/dl以上)の占める割合が増加することがわかる。

図2 肥満度と総コレステロール値の関連



総コレステロール 160mg/dl以下 —○—
161~240mg/dl —●—
241mg/dl以上 —×—



2) 中性脂肪

図3は肥満度と中性脂肪値との関連をみたもので、同様に肥満度の増加に伴って、高中性脂肪血症(151mg/dl以上)の占める割合も増加する。

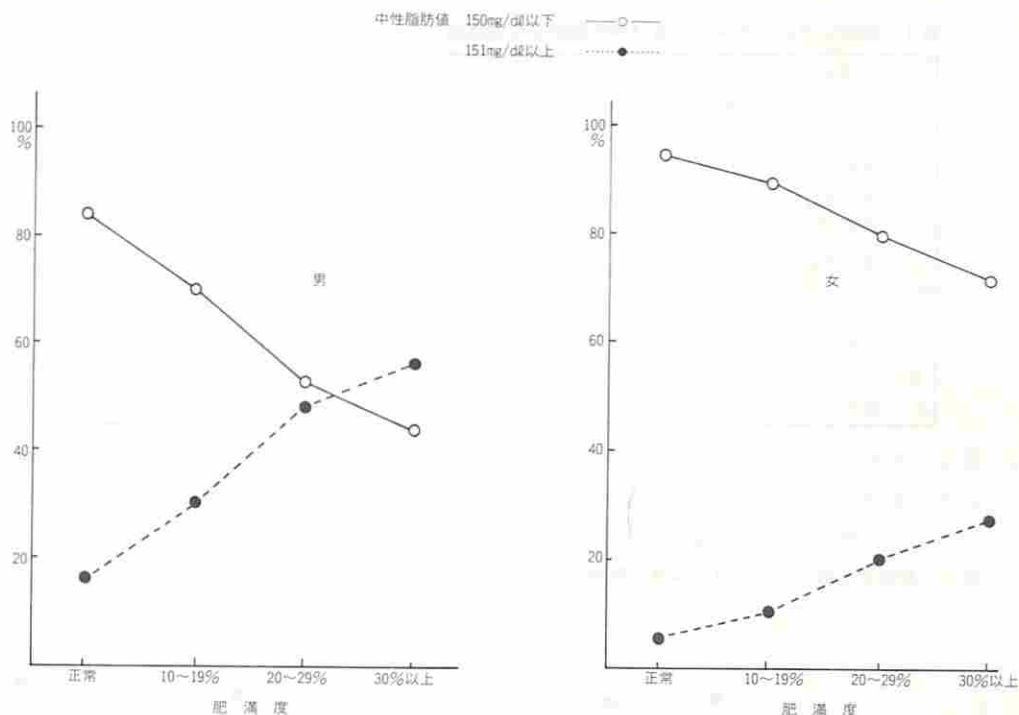
女性に高い傾向を示したのに対して、中性脂肪が高値を示す割合は男性に高かった。

次に、コレステロールと中性脂肪とを比較すると、コレステロール高値よりも中性脂肪高値を示す頻度が高かたに高く、肥満度との関連においても、中性脂肪の方がより強い相関を示した。男女別では、コレステロールが

2. 中性脂肪と血清膠質反応

血清膠質反応(TTT及びZTT)のうち、TTTの混濁度が血清脂質特に中性脂肪によって影響をうけると言われているため、今回検討を行ったところ、表4に示す通り、中性脂肪150mg/dl以下でTTT4.1単位以上の異常を示す割合は3.6%であるのに対し、151mg/dl

図3 肥満度と中性脂肪の関連



以上でTTT 4.1単位以上は 9.9%と明らかに多かった。すなわち、TTT値の異常(4.1単位以上)に高中性脂肪血症が関与する可能性があるので、TTT値を評価する場合に注意が必要である。

由として、アルコール摂取が推定される。今後、飲酒量と中性脂肪値との関連について検討していきたい。

(3) TTTと中性脂肪値のように、お互いに影響しあう検査値が、他にもいくつか存在すると思われる。この点今後は充分検討して、なるべく同一の条件のもとで検査値を判定し、より正確な評価ができるよう留意していきたい。

表4 中性脂肪とZTT及びTTTの関連(カッコ内の数字は比率(%))

血清脂質反応 中性脂肪		ZTT		TTT	
		12.0mg/dℓ以下	12.1mg/dℓ以上	4.0mg/dℓ以下	4.1mg/dℓ以上
150mg/dℓ 以下	男	976(96.3)	38(3.7)	988(97.4)	26(2.6)
	女	1,183(92.3)	99(7.7)	1,226(95.6)	56(4.4)
	計	2,159(94.0)	137(6.0)	2,214(96.4)	82(3.6)
151mg/dℓ 以上	男	332(98.5)	5(1.5)	317(94.1)	20(5.9)
	女	174(92.1)	15(7.9)	157(83.1)	32(16.9)
	計	506(96.2)	20(3.8)	474(90.1)	52(9.9)

ま と め

(1) 肥満と高脂血症とにある程度相関が認められた。従ってこの観点からも、肥満に対して注意が向けられ、対策がたてられなければならない。

(2) 男性に中性脂肪高値の頻度が高かった理